

評価委員評価票

研究課題名：B2 地震活動・地殻変動監視の高度化に関する研究

評価委員

委員長： 小泉 尚嗣

委員： 木村 富士男、関口 渉次、泊 次郎、渡辺 秀文

記入年月日：平成 28 年 10 月 21 日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 新規課題に移行 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

地震予知・予測の精度向上のため、また、(民間の) 不確かな地震予知・予測に対する国民の不安を取り除くため、地震活動・地殻変動の高度な監視は欠くことが出来ない。過去に地震予測精度向上に有効とされた手法を、否定的な結果も含めて1つ1つきちんと検証する姿勢は評価できる。

地殻変動監視技術については、(以前から課題とされている) ひずみデータにおける降雨の影響除去に取り組み S/N を向上させた。また、スタッキング解析によってひずみデータの S/N 向上につとめ、従来は困難とされた長期的ゆっくりすべりを GNSS データと同様に検出できるようにした。いずれも地味な結果ではあるが評価出来る。

地殻変動データに対する降雨による影響の除去について、タンクモデルを用いた歪計の降水補正手法を地震活動等総合監視システム (EPOS) に取り入れたのは評価できる。これまで地殻変動データに対する降雨による影響の除去は、タンクモデルも含めて必ずしも十分ではなかったもので、本課題での成果に期待したい。

今後の研究は、以下の指摘事項を踏まえつつこれまでの研究をさらに進めていくことを期待する。

- ・国際誌の原著論文としての発信についても、一層の努力をお願いしたい。
- ・地震発生シミュレーションを行う領域を、三陸沖から房総沖に広げ、過去に起きたM7以上の地震の震源域にアスペリティを置くと、平均間隔 400 年でM8.9の地震が再現されることを明らかにしたのは興味深い。北海道南東沖でも同じような手法でシミュレーションしてみるのも価値があることと考える。